

化石館

いる佐野市で発掘された
す。



単弓類とは？

単弓類は、古生代に
繁栄し、私たちの哺乳
類の親戚に当たる。



コノドント

Conodont

脊索動物門無顎類

/ 古生代～中生代

海の生き物の一部と考えられて
いる化石。コノドントという名
前は、ラテン語の「円錐状の歯」
という意味からきている。大き
さは0.2～1mmほどで、ウナ
ギのような細長い体を持つ。

イノストランケヴィア

Inostrancevia alexandri Amalitsky, 1922

脊索動物門単弓類 / 古生代

全長3mを超え、ペルム紀最大級の生物。大きな口と鋭い牙、
嗅覚も優れていたのではないかと考えられている。当時の生
態系の頂点にいた。

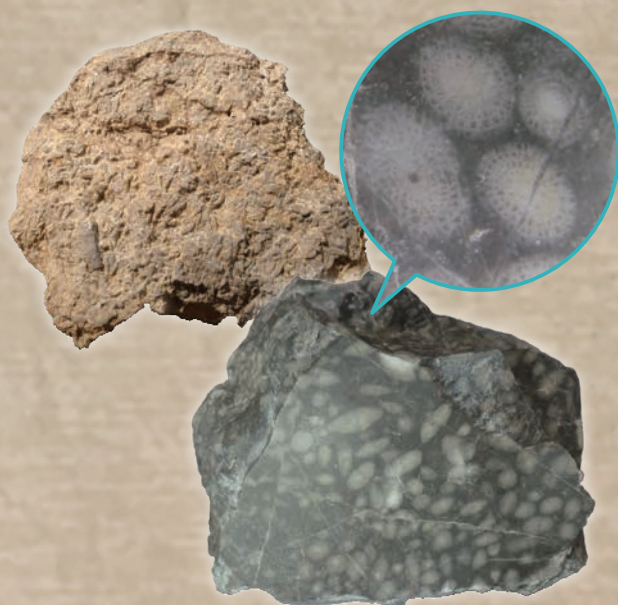
このイノストランケヴィアの全身骨格模型を持っているのは、
今のところ日本では葛生化石館だけである。

オルソティキア・ヤポニカ

Orthotichia japonika Hayasaka, 1932

腕足動物門 / 古生代

腹側の殻は大きく膨らむが、背側の殻
は平らで、おむすび型をしている。普
通は直径2～3cmほどの腕足動物だ
が、化石館には10cmほどのオルソ
ティキアを展示。これほど大きいもの
は他の産地では見つからない。



フズリナ：パラフズリナ属

Parafusulina sp.

原生生物界有孔虫門 / 古生代

本体は単細胞生物で、アメーバのような姿
をしていた。それが身を守るため、または
支えるために作った殻が化石として残って
いる。

ラグビーボールのような形をしており、断
面を見ると細かな部屋がたくさん見える。
葛生石灰岩地域から産出するのは、主にパ
ラフズリナ属で、長さ1～3cmほどの大き
さ。



ウミユリ類 / Crinoids

棘皮動物門ウミユリ綱 / 古生代

体を支える骨格は、真ん中に穴の開いた5円玉のような形の
円盤をつないだ形をしている。

ウミユリ類は死後、節でばらばらになりやすく、分離した形で
よく産出し、形がボルトのように見えるため、地元では「ね
じり石」と呼ばれる。



ミヤタハコガメ / *Cuora miyatai* Shikama, 1949

脊索動物門爬虫綱カメ目 / 新生代

日本以外で化石が見つかっていないことから、日本固有種であったと考えられている。この種は背甲がドーム状に高く盛り上がっているのが特徴。また、この化石は非常に保存の良いカメ類の化石としても知られている。



◀ 現生種のセマルハコガメ



葛生

葛生化石館に展示されて化石の一部をご紹介します



ヤベオオツノジカ

Sinomegaceros yabei

Shikama, 1938

脊索動物門哺乳綱鯨偶蹄目 / 新生代

日本固有種であったと考えられている。体の大きさは現在の鹿の3倍ほど。市内の石灰石鉱山の採石場内で大型のシカの角の基部が見つかり、これが日本で最初のヤベオオツノジカの報告となった。

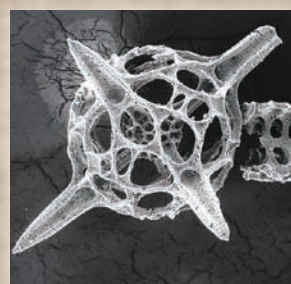


ニッポンサイ

Dicerorhinus nipponicus Shikama et al. 1967

脊索動物門哺乳綱奇蹄目 (ウマ目) / 新生代

市内の石灰採掘場からサイの全身骨格が見つかった。日本で唯一の全身化石である。



放散虫類 / Radiolaria
原生生物界放散虫門
中生代

大きさは0.1~0.5mmととても小さいが、種類が豊富で1万1千種を超える。

チャートとは??

チャートは、放散虫の殻が深海にたまってできた岩石で、とても密で硬い岩石。

唐沢山城はチャートの岩盤の上に築かれ、石垣もこの岩石で作られている。



ナウマンゾウ

Palaeoloxodon naumanni Makiyama, 1924

脊索動物門哺乳綱長鼻目 (ゾウ目) / 新生代

かつて日本に生息したゾウの仲間である。おでこにベレー帽をかぶったような出っ張りがあるのが特徴。オスは約2mを超えるカーブを描く大きな牙を持ち、メスは長さ65cmほどのまっすぐな牙を持つ。



クレヴィセラス (アンモナイト)

Cleviceras cf. chrysanthemum Yokoyama, 1904

軟体動物門頭足綱 / 中生代

市内のれき岩層から発見された。県内で二つだけ見ついているアンモナイトのうちの一つが佐野市産である。